

初明かり

山本 城

初明かり蠟梅透けて香りたつ鈴鹿の夜明け新しき春

暮れ泥み夕焼流す鈴鹿川甲斐の家並に帳が降りる

つむじ風駅前広場で渦となり落花巻き上げ線路を走る

山また山どこまで続く蟬時雨峽の二軒は静かに暮れる

遊歩道埋めても続く花の道石垣池に花の帯浮く

修理終え明治を刻む掛時計父の遺品が令和に息吹く

カナカナに急かされ詰まる夏休み残る宿題家族で埋める

滴りの一滴をまつ命あり集めて注ぐ伊勢の海へと